

# 京都の土地改良



第2回水・土・里ふるさと写真コンクール受賞作品

年頭のごあいさつ .....	会 長 野中 広務	1
府民生活を支える「力」を集めて、信頼の「京都」へ .....	京都府知事 山田 啓二	2
危機を好機にとらえる .....	参議院議員 佐藤 昭郎	3
平成21年度予算の要望活動を展開 .....		4
京都府農業農村整備事業推進大会 .....		5
農業農村整備の集い .....		7
第31回全国土地改良大会 .....		8
水土里フェスタ2008 in 京都駅ビル .....		9
丹後森林農業体験教室 .....		10
全国水土里ネット創立50周年記念式典 .....		11
21世紀土地改良区創造運動 .....		12
会員支援事業 .....		13
事務局だより・非補助農業基盤整備資金 .....		14

## 年頭のごあいさつ

水土里ネット京都  
(京都府土地改良事業団体連合会)

会長 野中 広務



平成 21 年の年頭にあたり、水土里ネット京都会員をはじめ、関係の皆様にご挨拶を申し上げます。日頃は、本連合会の運営ならびに諸事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに心よりお礼を申し上げます。

我が国の社会・経済情勢は、世界経済の景気後退を受け自動車、電子機器など輸出産業は軒並み減益となり大量の人員整理が打ち出されるなど雇用に対する不安が拡大する状況が続いており、一日も早い政府による経済対策の実施が待ち望まれている状況であります。また、国際社会に目を向けますと地球温暖化防止に向けた気候変動枠組み条約第 14 回締約国会議 (COP14) がポーランドで開催され、京都議定書に定めがない 2013 年以降の先進国の温室効果ガスの削減目標や途上国も含めた新枠組み「ポスト京都議定書」が議論され、途上国との溝が埋まらず具体的な前進がないまま閉会となっております。このかけがいのない地球は年々、温室効果ガスにより温暖化が進み北極海の海氷の縮小、氷河の後退や干ばつ、集中豪雨といった異常気象も全世界で多発し、たいへん深刻な状態にあります。温暖化対策には各国の権益にとらわれず全力でその合意形成に向けて取り組んでいただきたいものであります。

このような情勢の中ではありますが、本年も会員の皆様とともに、水土里ネットとしての使命感を持ち農業農村の確かな未来に向けて土地改良事業の推進に貢献して参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年 12 月 13 日付けで内閣府の消費者行政に関する世論調査で、消費者問題の関心分野として食中毒事故や食品添加物など食品の安全性を挙げた人が 88.8% に上ることの発表がありました。食の安全安心はご承知のとおり我々の子々孫々に大きく影響する問題であります。

一方、我が国の食料の自給率は 40% と先進国で最低レベルであり、食材の大部分は外国からの輸入に頼っております。この度、農林水産省は食料の自給率向上を目指すため、農地法改正を通常国会に提出される見通しであります。今回の改正では農地の借用規制を緩和し意欲のある個人や企業などが農地を利用しやすくするほか、遊休農地や耕作放棄地の解消を図るため農地の所有者への農業生産に利用する責務が科されることとなっております。しかし、農地の有効利用の名のもとに農家が先祖代々守り育んできた農地への愛着や地域コミュニティーが一体となって守ってきた土地改良施設や農村の自然環境といったかけがえのないものが失われることがないように、我々土地改良の関係者は、地域へいかに貢献できるかを考えることが必要となってまいります。

そのひとつに、農村地域の環境や集落を守り続けてこられた土地改良区の皆様方の持つバリエーションを活かした 21 世紀土地改良区創造運動ではないかと思えます。地域農業の仕組みが大きく変ぼうを遂げようとする中、土地改良区の役割は、益々期待されているところであり、今までにも増して皆様方の積極的な取組みを期待しております。

新しい年を迎え、当連合会におきましても会員の皆様方の様々な要請に応えるべく、創意・工夫をこらし農業農村整備事業の推進に努めてまいりますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

最後に、皆様方のご多幸と益々の隆盛をお祈り申し上げます。私の新年のご挨拶といたします。



# 府民生活を支える「力」を集めて、 信頼の「京都」へ



京都府知事 山田 啓二

府民の皆様、あけましておめでとうございます。

去年は、北京オリンピックで京都府ゆかりの多くの選手が活躍され、また、京都と縁の深い益川敏英氏、小林誠氏、下村脩氏がノーベル賞を受賞されるなど、京都府民として誇らしい年となりました。また、源氏物語千年紀では、記念式典に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、「古典の日」宣言を行うなど京都の未来を文化の力で照らす大きな可能性を示すことができました。

ただその一方で、世界的な金融危機が景気の急速な後退をもたらし、府民生活に大きな影を落としつつあり、生活への不安感が拡大したまま新たな年を迎えることになりました。

しかも、このような厳しい経済状況の中で、府民を支えていかなければならない立場の京都府において一連の経理不祥事が起きたことは、誠に申し訳なく思っており、心からおわび申し上げます。府民の皆様の信頼を回復していくためには、徹底した再発防止と、京都府が厳しい時期を乗り切るべく死力を尽くすことしかないと考えております。

それだけに、今年は、今一番厳しい立場にある中小企業や雇用の不安を抱えている人たち、また高齢者や障害のある方々など社会的に弱い立場にある人たちをしっかりと支えていく府政を第一に、その上に「京都の持つ豊かな力」が発揮できるよう、府民生活の基盤である「地域」に活力を取り戻し、京都の産業力を強化するための取り組みを進めていきたいと考えています。

ありがたいことに「京都」には、長い歴史の中で常に新しいものを生み出し続けてきた文化力と環境と共生しながら創り上げてきた思いやりの心があります。この京都の「力」と「心」こそが今の厳しい時代を乗り切る鍵であり、「心の世紀」21世紀の日本のモデルを京都から発信していきたいと思えます。こうした京都の力は、京都の人の力であり、京都の心は京都の人の心です。行政は、京都の人たちが力を発揮できる環境を整え、京都の「人」のパワーアップを行う機関でなければなりません。

京都府では一昨年来、「地域力の再生」を目標に掲げ、地域でがんばる皆様とともに、地域が元気になる取り組みを進めてまいりました。これまで七百を超える連携・協働の活動が行われており、まさに京都の力を増し、京都の心を発揮する取り組みの輪が広がっています。他にも、総合就業支援拠点「京都ジョブパーク」、京都モデルフォレスト、京都産業エコ推進機構などの取り組みが、皆様との連携・協働で着実に成果を上げています。また、平成23年には、「国民文化祭・京都2011」が開催されます。

これからも、京都府庁も府民サービスの最大化を目指して、すべての施策が府民起点で行われるよう全力を挙げて改革に取り組んでまいります。府民の皆様にも、京都を良くし、京都の力をアップし、京都の心を発揮する多くの取り組みにご理解をいただき、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

結びに当たり、この一年の府民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

# 危機を好機にとらえる



参議院議員 佐藤 昭郎

水土里ネット京都の皆様、新年あけましておめでとうございます。ご家族と一緒に穏やかな正月を、あるいは職場の皆様との仕事始めを、それぞれお迎えになられたものと拝察申し上げます。

さて、2009年の我が国経済社会を巡る内外の状況は、極めて複雑多岐であり、土地改良にとっては、危機を好機にとらえる発想の転換が必要です。

まず、昨年10月米国発サブプライムローン問題に端を発した100年に一度の世界規模の金融経済危機は、特に、地方における今後の景気後退や雇用悪化問題の本格化が懸念されますが、公共事業費の思い切った増額による需要の創出が、重要な政策手段となります。

また、地球規模での食料・エネルギー価格の高騰、事故米、冷凍ギョウザ事件など輸入農産物の安全性問題は、改めて、食料や水の安全保障や国内農業生産の重要性について国民の理解を深めました。

さらに、昨年から京都議定書第一約束期間（2008-2012）がスタートしましたが、地球温暖化問題への対応は、環境技術立国への「国のかたち」の変革を求めています。

WTOドーハラウンドにつきましても、10年に及ぶマラソン交渉の大詰めを迎えることとなりましたが、重要品目、関税割当等の事項で、我が国の主張が成立するかどうか予断を許さぬ状況です。

ここ何年間かの世界の貿易や地球環境の状況は、国境なき自由貿易を至上とした10年前のドーハラウンドのスタート時点と全く様変わりしていますので、関係会議の延期は、農業農村の多面的機能を重視した新しい農産物貿易ルールを主張する好機でもあります。

さて、国政における対応策ですが、政府・与党として、まず、補正予算により、燃油・肥料高騰対策を行い、さらに、今後二次補正と21年度予算、及び通常国会提出予定法案等により、米価安定対策、水田フル活用、「農地改革プラン」等の政策を打ち出し、実行してまいります。

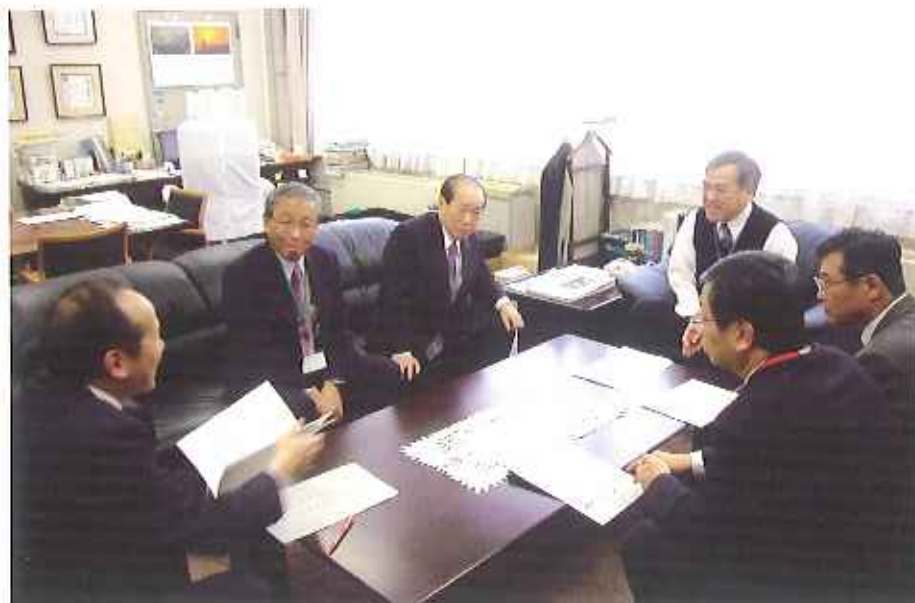
中長期的には、平成20-24年度をカバーする「土地改良長期計画」を、また、今後1年かけて10年後に自給率50%を目指す、「新たな食料・農業・農村基本計画」を策定すべく、政府・与党一体となって徹底論議を行う予定であります。

一方で、昨年来、地方分権推進委員会を中心に、地方切り捨てにもつながりかねない拙速とも思える改革案が地域、受益者の不安を増大していますのでこれへの対応をしっかりと行って参ります。

2009年は、まさに内外ともに激動、激流が予測される1年ではありますが、以上述べてきたように、逆風を利用して、危機を好機に変えるチャンスでもあります。そのためには、現場・行政・政治の連携、すなわち「情報を共有して、役割分担してことに当たる」基本を再認識すべきであると考えます。

その一例として昨年11月に、自民党本部において「農村基盤整備議員連盟」の総会が行われ、全国8ブロックから出席された土地改良区代表の意見発表に続いて熱心な質疑が行われ、①基幹的な水利施設は国が責任を持って整備すること ②地方負担軽減措置を行うこと等5項目からなる決議を採択し、自民党3役、農水大臣、財務大臣、総務大臣へ要請活動を行いました。1月招集予定の第171回会は残念ながら引き続きネジレ国会であります。政治主導の中で、皆様の地域・土地改良区の声を具体的な政策に反映できるよう私も全力を尽くす所存です。本年が皆様に、またご家族にとりまして、素晴らしい年でありますように。

## 平成21年度予算の要望活動を展開 財務省、農林水産省、近畿農政局、関係国会議員に



農林水産省中條農村振興局長への要望

平成20年6月21日(土)に開催された「京都府農業農村整備事業推進大会」の決議に基づき、12月19日(金)財務省、農林水産省、関係国会議員に、本会並びに京都府農業農村整備事業推進協議会(会長：田中英夫)が合同で、本会と協議会の要望をより施策に反映していただくよう「平成21年度 農業・農村整備に関する要望書」を提出しました。

要望の中で、昨年度から本格的に実施している農地・水・環境保全向上対策においては、地域ぐるみで地域の大切な資源を保全する活動の着実な推進並びに過疎化、高齢化、地域コミュニティの崩壊などにより地域や自然環境が維持・保全ができなくなっている農村地域の現状を踏まえ、施策の恒久化を優良・高品質な野菜等を供給する都市農業を支える土地改良施設への支援を要望するとともに、地域コミュニティの核として多大な貢献をしてきた「水土里ネット」の社会的役割の重要性や、良好な地球環境を次世代に引き継いでいくために、森林を含めた国土全体の保全対策が必要であり水源地域の保全並びに里地・里山の一体的な保全活動の必要性・重要性を訴えました。

また、12月15日(月)には近畿農政局に対して、本省と同様の要望活動を行い、農地・水・環境保全向上対策の大切さと地域や自然環境の保全の大切さを訴え、地域活動の核となっていく水土里ネットへのさらなる支援を要望しました。



財務省丹吳主計局長への要望



近畿農政局農村計画部・整備部幹部への要望

# 京都府農業農村整備事業推進大会

## 京都府農業農村整備事業の今後の展開



平成20年6月21日(土)、国立京都国際会館において「京都府農業農村整備事業推進大会」を開催いたしました。当日は、京都府ならびに会員である市町村、土地改良区、農業協同組合等の農業農村整備事業関係者ら約400人の参加のもと、多数の来賓をお迎えして盛大に開催することができました。

第1部の推進大会では、主催者を代表して野中会長より去る5月21日にお亡くなりになった前全国水上里ネットワーク会長堀本又三元参議院議員を偲んで当時の活躍をご報告された後、今までかつて経験したことのない社会情勢の変化に直面する中で、農村における地域環境や地域コミュニティを守り続けてきた土地改良区の役割は国民に大きく期待されており、それに応えるべく土地改良区と地域が連携して21世紀土地改良区創造運動を進めていくとの挨拶がありました。

次に公務ご多忙の中ご出席いただいた京都府小石原副知事、近畿農政局齊藤局長、京都府議会家元議長からご祝辞をいただきました。

### 決 議 (案)

我が国の農業農村は、安心・安全な食料の安定供給とともに、豊かな自然環境、美しい景観の保全、貴重な地域文化の継承など、国民生活に欠くことのできない多面的な機能を有し、農業・農村の役割機能に対する多くの国民からの要請と期待がますます高まりを魅せている。

しかしながら、近年、米価の下落などにより農家経済は危機的な状況に陥っており、高齢化、高齢化が進む中で、耕作放棄地は拡大し、食料自給率は四十%を下回る状況となった。

さらには、国民全体の生活基盤を脅かす食品の偽装が多発するなど食の安心安全に対する信頼が揺らぐとともに、地球温暖化の進展、国際的な穀物価格の上昇など将来の食料の安定供給の確保に対する懸念が高まっている。

このような中、「経営所得安定対策等大綱」に基づき、担い手の経営に着眼した経営安定対策と合わせて、「農地・水・環境保全向上対策」が実施され、これまで培ってきた技術や経験を生かし、農業・農村の「水」「土」「里」と、これらを育み結びつける「人の営み」を、次の世代に良い形で引き継ぐことが一層重要になっている。

先人の叡智と連続と積み重ねられてきた努力をならい、今の時代に生きる我々もこれらを白らの責務とし、その使命を果たしていくことが重要である。我々農業農村整備関係者は、二十一世紀を着実に歩み、新たな時代に重要な使命と期待を担う農業農村整備を推進するため、総力を結集して左記事項の実現を図ることを本大会の名において決議する。

### 記

- 一、安心・安全な食料の安定供給と農業・農村が持つ多面的な機能の発揮に不可欠な農地や農業用施設の整備・保全を行う農業農村整備を、国の重要施策として位置付け、国と地方の適切な役割分担のもと、確実な推進を図ること。
- 二、国民共有の財産である「水」「土」「里」を地域が共同で保全していく「農地・水・環境保全向上対策」に対し、水上里ネットワークとして主体的に取り組みこと。
- 三、土地改良施設の適切な更新・整備や災害に強い農業農村づくりに向けた防災対策を計画的に進めるとともに、都市と農村の共生対流を通じて農村の活性化に取り組むこと。
- 四、水上里ネットワークの名に相応しい役割と責務を認識し、一九九十年から「二十一世紀土地改良区創造運動」に取り組み、会員の利益の増進に向けた事業活動を推進するとともに、土地改良団体の運営基盤の強化を図ること。

平成二十年六月二十一日

京都府農業農村整備事業推進大会

引き続き、独立行政法人 水資源機構 太田信介副理事長から「21世紀の農業と農村 ～京都の水・土・里を未来に！～」と題して①世界の水事情に関しては限られた水資源と増大する水使用、水ストレス指標、日本の食料輸入と仮想水総輸入量の課題②気候変動と水に関しては異常多雨・少雨の発生、食料増産とかんがい用水の増加の見通し③我が国の農業農村振興に関しては40万kmの水利用ストック、都市化・混住化・過疎化・高齢化、農家の減少、生産性重視の営農、国際競争力の低下、耕作放棄地等全てを取り組まなければならない現状にあること④21世紀の水・土・里ネットに関しては水・土・里ネットの役割と目標についてご講演をいただきました。

続いて、農業政策の大きな転換をむかえる中で、先人たちのたゆみない努力と創意工夫により築き上げられてきた国民共有の財産をしっかりと未来に引き継ぎ、農業農村の活力をよみがえらせるための活動を行う決議案が全員一致で採択されました。

第2部では、参加者全員で交流会を行い、途中からご出席していただいた京都府山田知事より力強いお言葉をいただき、参加者一同終始なごやかに懇談と交流を図ることが出来ました。

## 独立行政法人 水資源機構 太田信介副理事長 講演内容（要約） 21世紀の農業と農村 ～京都の水・土・里を未来に！～

我が国の農村に対する私の基本的な気持ちは、国民から支持される安全・安心・新鮮おいしいものを作り出す農業が行われて、そして、都会の人たちも包み込んでしまうような場所として、そういう存在としてあり続けてほしいと思います。

ところが国民の目は必ずしも農村に向かっておりません。養老孟可さんが「馬鹿の唾」という本を書かれましたが、養老先生にお会いしたときに、「都会は頭だ、農村は身体だ。」とおっしゃいました。これを聞くと、なんとなく、頭の方が偉いみたいですが、このしゃべっている私の口これは、身体です。この口がなかったら、いくら脳で考えても実行できないのです。ですから、結局、人間というのは脳と身体と両方、うまくいって初めて人間なのだという話を何って、なかなか含蓄が深いなあと思っています。

(略)

さて、我が国は水・土・里に覆われています。昨年の全国土地改良京都大会で沢田先生が紹介された日本水士図は、農地へ水を送る水路や排水路を動脈・静脈として表したもので日本全国を覆っているのです。

そして水・土・里は多面的機能を発揮しています。私たちは地下水を補い、田んぼに水を張ることによって、気候が緩和される、水路から農村では防火用水に使ってもらい、美しい景観を創る、生態系を保全する、生活用水、こんなことを含めて多面的機能を発揮しています。

(略)

21世紀土地改良区創設運動の目標は①農業用水路等の管理の一部(草刈り・泥濘い等)が地域のボランティアの手によって行われる体制ができる。②土地改良区が主に水と土地の権利関係の調整を通じて地域づくりに貢献するNPO的存在として地域社会から認知される存在となること。

私は国民の一人ひとりに水・土・里ネットの存在と役割を知ってもらって、応援してもらえるのが理想と思います。理想論に走りすぎないで、実現可能で続けられることを行っていくこと。少数でなく、皆で取り組むのが基本であり、今まで無縁だった人も巻き込み、そして着実に一歩一歩踏み出す。こういったことが大事であると思います。

農村の価値とはおいしいもの・安全なものが作られ、人間らしい暮らしのあるところであり、素晴らしい人たちに会えるところ、手入れされた自然にめぐり合えるところ、或いは新しい発見ができる本物があるところ、そういう貨幣で換算できない国民共通の財産ということになるのです。

(略)

農林水産省では団塊の世代や20代の若者中心に農山漁村に高まる関心にむけて、今後10年間で①農村に住む人を150万人くらい増やす。②都市と農村両方に住む人を300万人増やす。③年間宿泊者を1000万人まで増やす。そんな目標を作っており、昨年5月には農山漁村活性化の法律ができました。

また、農林水産省の提案で今年から5年かけて、120万人いる小学校の1年生全員に一週間くらい、農家に滞在できる取り組みが始まったのです。これは文部科学省と総務省と連携してできるようになったもので素晴らしいと思っています。

宮金次郎の言葉に「私の願いは人々の心の田の荒廃を開拓して、天から授かった善の種を育て、また、撒き広めることにある。心の荒廃を一人が開けば、土地の荒廃が何万町歩あろうとも恐れるものはない。」

この素晴らしい京都に日本人のふるさとを再生していただいて、京都の農村は素晴らしいと言われるように、そして京都の緑が皆さんの努力で多くの人々を巻き込んで守り続けられますように、私も引き続きみなさんの支援を全力でさせていただくことを確約いたします。



# 農業農村整備の集い



平成20年11月18日(火)、東京都新宿区日本青年館大ホールにおいて、平成20年度「農業農村整備の集い～21世紀の「水」、「土」、「里」の創造を目指す農業農村整備～」が開催され、石破茂農林水産大臣をはじめ衆参両院の国会議員、農林水産省の幹部、また、全国の水上里ネット関係者が多数(京都府から8名)参加しました。

大会では、野中広務全国土地改良事業団体連合会長のあいさつ、石破茂農林水産大臣来賓祝辞、つぎに中條康朗農村振興局長が平成21年度農業農村整備予算についての情勢報告、全国代表の二つの土地改良区から意見発表があり、最後に平成21年度予算の確保等を求める決議が満場一致で採択されました。

また、集い終了後、決議の実現に向けて、参加者代表が要請活動を行いました。

## 決 議

食の安全安心に関する様々な問題が顕在化する中、地球規模での気候変動や新興国の所得向上などに伴う世界的な穀物の需給逼迫と価格高騰は、現在及び将来にわたる国民への食料の安定供給について大きな不安要因となっており、穀物を中心とする我が国の食料供給力の強化が叫ばれているが、一方で、地方財政の悪化や農産物価格の低迷、農村の過疎化・高齢化の進展などにより、農村地域の疲弊は限界に達しつつある。

このような状況の中で、国内農業の体質強化を図りながら、食料供給基盤である農地・農業用水等を質的・量的に良好な状態で確保し次世代に継承していくことは喫緊の課題であり、特に大規模な優良農業地帯における基幹的な水利施設について、計画的・効率的な更新整備を確実に行っていくことが不可欠である。

我々水上里ネットは、国をはじめとする行政の支援を得ながら、これまで培ってきた経験と技術を活かし、生き生きとした活力ある農村社会の構築と国内農業の体質と供給力の強化に積極的に貢献していく覚悟である。

同におかれては、農業・農村の持続的な発展を確固としたものにするため、平成二十一年度予算に向けて、左記事項を実現することを要請する。

## 記

食料供給の最も重要な基盤である基幹的農業水利資産を次世代に引き継ぐため、国営事業を着実に推進するとともに、老朽化が進む農業水利施設の計画的な更新と適切な保全管理を推進するなど、国はその責務を十分に果たすこと

食料供給力の強化と国内農業の体質強化を図るため、耕地利用率の向上と面的集積に資する大区画化・汎用化等の基盤整備や農地情報のデータベース化を推進すること

農村協働力を活かした地域資源や環境の適切な保全と質的な向上を図るため、農地・水・環境保全向上対策を着実に推進すること

頻発する災害への対応力を強化し安全・安心で快適な農村づくりと定住化を図るため、農地・農業用施設の防災・減災対策をより一層推進すること  
地球環境問題への対応を図るため、小水力など農村に豊富に賦存する資源の有効活用による農村における低炭素社会の構築やバイオマス利活用を促進すること

これらの政策推進のために必要な農業農村整備関係の予算を確保するとともに、所要の地方財政措置を講ずること

平成二十一年十一月十八日

農業農村整備の集い

# 第31回全国土地改良大会

## 秋田大会開催される



平成20年10月14日（火）から10月16日（木）まで、全国水土里ネット及び水上里ネット秋田の主催により「第31回全国土地改良大会」が「～あすを拓く大地 きらめく疏水 たくましき郷～」をテーマに、秋田県秋田市「秋田県立武道館」で全国各地から3,900名が参加（京都府からは71名参加）して盛大に開催されました。

オープニングセレモニーでは、勇壮なお蔭子によって艶やかな衣装をまとった女性が優雅に舞う日本三大盆踊りの一つ「西馬音内踊り」が会場いっぱいに繰り広げられました。

大会式典では、小林秋田県上連副会長の開会宣言、参加者全員による国歌斉唱のあと、高畑秋田上連会長が開催県挨拶、野中全上連会長が主催者挨拶、寺田秋田県知事と秋田市長代理大山副市長の歓迎のことは、農林水産大臣代理近藤農林水産副大臣の来賓挨拶のあと、土地改良事業功績者表彰が行われました。京都府からは、長年に亘り本会与謝支部で土地改良事業の推進に多大のご尽力をいただいた細井元与謝野町加賀土地改良区理事長が全国土地改良事業団体連合会会長表彰を受けられました。

続いて21世紀土地改良区創造運動大賞7地区の表彰と優良地区事例の紹介のあと、齋藤農村振興局整備部長が基調報告を行い「食糧自給率の向上に資する農地・農業用水等の食料供給力の強化」「農地政策改革」などの状況を提示し、地域財産としての農地や土地改良施設を未来の子どもたちに向け、しっかりと引き継いでいくことの重要性を示されました。

大会宣言は、秋田県立大学3年生の進藤暁さんと成田望美さんが力強く朗読し、土地改良の役割の再認識と水・土・里を後世に伝える努力を訴え、満場の拍手が寄せられました。その後次期開催県である鳥根県の紹介、大会旗引継ぎ、次期開催県の挨拶がありました。

ここで緊急動議があり「予算の確保」「基幹的な農業水利施設は国営事業で実施」の提案が全員一致で採択され、全員で万歳三唱を行ったあと閉会となりました。

式典終了後、全国の参加者の親睦を深めるため交歓会が開催されましたが、京都府では関係者独自で交歓会を行いました。途中から野中会長も加わりいろいろな意見交換が行われ、今後も京都府内の農業農村整備事業の推進のため一層努力することを誓い合い盛会の内に終了しました。

翌日からの事業視察は、3コースに分かれて秋田県の風土・風景を見ながら、土地改良施設を見学しました。



細井 拓一氏

# 水土里フェスタ2008in京都駅ビル

— 森と水土里へのいざない —

農業用水水源地域保全対策事業

水源地域から流下する良質な農業用水を通じて恩恵を享受している下流地域の農業者や地域住民等、より多くの府民に対して、水源地域および農地を取り巻く現状や課題、農業用水への理解を深めてもらうため、様々なイベントを通して広く京都駅から情報発信を行いました。

実施日時：平成20年11月2日(H)～11月7日(金)

実施場所：京都駅ビル インフォメーション前

主催：水土里ネット京都、京都府森林組合連合会、(社)京都モデルフォレスト協会

共催：京都市

後援：京都府



足を止めてパネルを見る府民



終日賑わった「木工広場」



「天然木」、「稲穂」について会話する親子



森林や農業農村のクイズコーナー

パネル展示だけでなく、森林や農地に親しみを感じてもらうため、「木工広場」等の効果的な体験型啓発も行い、開催期間を通して推定来場者数は約10,000人でした。来場者には非常に好評で、さらに「森」と「水土里」への関心が深まった旨の意見が寄せられました。

アンケートによると、「森林浴」「国土の保全」「景観保全」、近年の世相を反映した「食への安心安全」への期待が多く見受けられました。また、森と水土里にふれあう機会として、「ウォーキング」「農業体験」などのイベントへの期待が、ますます膨らむところです。

# 丹後森林農業体験教室

農業用水水源地域保全対策事業

良質な農業用水を通して森林と農地への理解を深めてもらうため、次世代を担う子供たちを中心に、農作業体験や林業体験を行い、併せて農業者および林業者相互のフィールドの理解浸透を図るため体験型啓発事業として「丹後森林農業体験教室」を実施しました。

実施日時：平成20年10月25日(土)

実施場所：京丹後市久美浜町女布地内 市造林地 (林業体験)

同 大井地内 国営農地 (農業体験)

主催：丹後土地改良区、水士里ネット京都

後援：京都府丹後広域振興局、京丹後市、丹後地区森林組合



森林の役割などを熱心に聞く子供たち



初めて使うノコギリはむずかしい!



山からの「水」が山畑を潤すことを説明



初体験の子供から、喜びの声あり

京丹後市在住の親子約30余名の参加があり、「森」と「水士里」を楽しく学ぶことができました。体験後は、昼食として「地元産の野菜カレー」をみんなで食べました。今回の取組の成果として、参加者からは、森・水士里への理解認識は非常に深まり、今後の体験教室開催への希望の声が多く寄せられました。本会としては、来年度以降もこの要望に応じて、次世代の子供たちに水源地域や農地などの重要性等を伝えていきたいと考えています。

# 全国水土里ネット創立50周年記念式典



平成20年9月3日(水)、東京都港区 虎ノ門バストラルにおいて「全国水土里ネット創立50周年記念式典」が開催されました。

当日は、農業農村整備事業関係者ら約400人の出席のもと、水土里ネットの運営や事業推進に尽力された関係者を表彰するとともに、農業・農村の未来に向け新たな決意と飛躍を誓い合い、記念講演やミニコンサート、祝賀会が開かれました。

記念式典では、全国水土里ネット野中会長より式辞があり、この50年間で農業・農村を支える基礎となる土地改良事業も、その時々課題に応じて変化してきた。今後の日本の農業を背負って立つことのできる農業構造を確立することが待ったなしの課題となっており、明日の農業を支えるためにも我々土地改良団体は一層結束し、その任務の遂行に向かって決意を新たにし、更に前進していく必要があると述べられました。

続いて、全国水土里ネット顧問の佐藤参議院議員の祝辞、来賓の農林水産省幹部の紹介後、表彰式が行われ、農林水産大臣感謝状29名（京都府からは水土里ネット京都高田元常務理事）、全土連会長表彰 役員51名（京都府からは水土里ネット京都谷川元常務理事、青合前常務理事） 職員288名（京都府からは水土里ネット京都高奥事務局次長）に表彰状が授与されました。

続いて、政務のために遅れて出席された太田誠一農林水産大臣の祝辞があり、食料自給率を50%の水準に回復するためには農地に関するインフラの再整備が必要であり、土地改良事業に携わる皆様の役割は益々大きいものと述べられました。



高田長三郎氏

引き続き、野中広務氏による記念講演「戦争世代からの遺言」、ミニコンサート「山紀さおり・安田祥子 こころの歌」が行われ、会場は和やかな雰囲気になりました。

式典終了後、会場を移し祝賀会が開かれ、農林水産省農村振興局中條康朗局長、水土里ネット滋賀酒井研一会長、(財)日本水土総合研究所森田昌史理事長の祝辞のあと、全国水土里ネット段本副会長の音頭により50周年を祝うとともに参加者の交流を図り、盛会に終了しました。



# 21世紀土地改良区創造運動

## —水土里ウォーク・農林水産フェスティバル—

本会が取組んでいる「水上保全強化対策事業」の土地改良史跡めぐりに関する事業として、水土里ウォークを昨年も会員の協力をいただき、府内の2か所で実施することができました。

### ❖ 洛北水土里ウォーク



開催日時 平成20年11月24日(月・祝)  
開催場所 京都市北区上賀茂周辺  
主 催 京都市、洛北土地改良区、  
水土里ネット京都京都支部  
後 援 京都府、水土里ネット京都  
参加者 63名

当日は秋晴れの下、スタートしましたが、コース途中から雨が降る天候のなか、参加者は「ため池・水路などの土地改良施設」「すぐき漬けの里」などを見学しながら約6kmに及ぶスタンプラリーを行いました。参加者からは「農地や水路の大切さ」「農業や農家の伝統を守っていくことは必要」などの感想が寄せられました。

### ❖ みかのほら歴史ウォーク&芋煮会

開催日時 平成20年10月11日(土)  
開催場所 木津川市加茂町瓶原周辺  
主 催 瓶原土地改良区、瓶原まちづくり協議会、  
瓶原農地・水・環境保全会  
後 援 木津川市、京都府山城広域振興局、  
NPO法人ふるさと案内・かも、  
水土里ネット京都  
参加者 約100名



早朝からの雨にもかかわらず、約100名の参加者は瓶原の田園地域を散策し歴史的な水利施設である大井手用水路の役割や大切さを実感してもらいました。参加者からは「先人の知恵のすばらしさと鎌倉時代からの約800年にわたり水路が維持管理されていることに感心した」「美しい自然に感動した」などの声が寄せられました。

### ❖ 農林水産フェスティバル2008



平成20年11月29日(土)、30日(日)の2日間、京都府総合見本市会館(京都市伏見区)において開催の京都府農林水産フェスティバル2008に水土里ネット京都のPRブースを出展しました。

21世紀土地改良区創造運動の活動紹介、水・上・里ふるさと写真コンクールの入賞作品のパネル展示、水土里ウォークの取り組みについての紹介、また土地改良施設安全管理推進啓発用DVD(アニメ作品)の放映を行いました。多くの方々にPR資料や展示パネルを興味深く見ていただきました。

# 会員支援事業

## 会員支援事業の制度化

本会では、会員における喫緊の各種課題について、会員自らの取り組みを促すことにより農家などの要望や期待に応えるための財政上の支援制度を行っており、会員の要望に応えかつ本会の運営に有益となるよう会員支援事業を制度化しています。

### ■土地改良事業計画

- ・事業計画事務支援…事業計画書等の作成

### ■換地事務

- ・遅延地区換地促進対策支援…換地処分事務に必要な書類の作成

### ■調査・測量・設計

- ・積算システム保守支援…パソコンへの積算システムの入力・管理
- ・電子媒体保存支援…紙ベースの成果品の電子化
- ・調査設計支援…調査設計事業実施前の事前調査（概略設計、概算事業費算出）

### ■21世紀土地改良区創造運動

- ・創造運動支援
- ・人材育成支援…研修会・説明会等への参加、研修会の開催
- ・土地改良施設表示促進支援

### ■地域協働活動

- ・地域協働活動支援…農振農用地以外での協働活動へ支援

### ■土地改良施設

- ・土地改良施設管理構想策定支援
- ・土地改良施設機能診断支援…高度で詳細な施設診断
- ・小規模土地改良施設適正化支援…50万円以上の施設の整備・補修

### ■会員支援事務

- ・会員支援…会員からの要請により本会職員の派遣・事務支援

### ■その他

- ・特認

## 事務局だより

### 今後の研修予定

#### ◎平成20年度土地改良区等役職員研修会

日時：平成21年2月12日(木) 13:30～  
場所：ルビノ京都魁川  
内容：土地改良区運営について

#### ◎換地処分実務研修

日時：平成21年3月3日(火) 13:30～  
場所：京都府自治会館  
内容：換地実務の課題について

#### ◎森と水土里のフォーラム

日時：平成21年2月23日(月) 13:00～  
場所：京都大学百周年記念ホール  
内容：森林と農地の役割りと保全の重要性  
について

#### ◎維持管理に関する技術者研修会

日時：平成21年2月27日(金) 13:30～  
場所：京都府自治会館  
内容：土地改良施設の維持管理について

### 非補助農業基盤整備資金

農業基盤整備資金は、用排水路の改良、ほ場整備、農道整備など生産基盤を整備して農業生産力の増大及び生産性の向上を図るための資金です。

また、農業集落排水施設の整備など生産基盤と一体として行う生活基盤の改善に必要な資金も対象となります。

#### ■対象となる事業種類

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(軌道等運搬施設を含む。)、畦畔整備、農地造成、防災、農地保全、維持管理、農業集落排水、土地改良区事務所、事務機器、車輛、調査費など

○農業集落排水事業の主な工事内容

- ・宅地内配水管敷設、屋内配水管敷設、集水ます、合接ますの設置
- ・トイレの改修工事
- ・浴室の改修工事(限度額100万円)、台所の改修工事(同50万円)、洗面所の改修工事(同10万円)

#### ■ご利用いただける方

①土地改良区、土地改良区連合(事業主体になる場合に限る。)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む者、農業振興法人

②5割法人・団体(農業を営む者及び上記①の法人がその構成員又はその資本金などの過半を占めるか又は過半の出資等をしている法人・団体)

(注1) 5割法人・団体が借入者となるのは、農業集落排水施設等の農村環境基盤施設及び集落道(集落環境基盤施設)を対象とする場合に限りです。

(注2) 団体への貸付けは、構成員の全員又は一部の連帯債務として融資します。

#### ■融資条件

償還期限:25年以内(うち据置期間10年以内)

融資限度額:地元負担金(最低限度額50万円)

金利:1.70%(12月18日現在)

借入時の金利は、金融情勢により変動します。  
最新の金利は、融資機関にご照会ください。

#### 融資のご相談・お問い合わせ

農協、信連、各市町村役場、府広域振興局、  
京都府土地改良事業団体連合会  
日本政策金融公庫京都支店 農林水産事業  
(075-221-2147)

# 謹賀新年

会長理事	野	中	広	務	園部町土地改良区理事長
副会長理事	藤	原	秀	夫	
〃	田	中	英	夫	
常務理事	藤	吉	弘	政	洛西土地改良区理事長
理 事	中	村	安	良	長岡京市長
〃	小	田		豊	巨椋池土地改良区理事長
〃	茨	木	定	夫	井手町長
〃	汐	見	明	男	亀岡市長、上桂川用水土地改良区連合理事長
〃	栗	山	正	隆	京丹波町長
〃	松	原	茂	樹	十倉土地改良区理事長
〃	川	端	貞	男	福知山市土地改良区理事長
〃	駒	居	十	一	舞鶴市長
〃	齋	藤		彰	宮津市長
〃	井	上	正	嗣	京丹後市長
〃	中	山		泰	丹後土地改良区理事長
代表監事	片	山		茂	京都市東山土地改良区理事長
監 事	粟	津	誠	一	宇治田原町長
〃	奥	田	光	治	



京都府土地改良事業団体連合会

T602 8054 京都市上京区山水通油小路東入「子風呂町104番地の2」京都府庁西別館

TEL (075) 451-9633 FAX (075) 414-2777

E-mail: info@midorinet-kyoto.jp

URL: http://www.midorinet-kyoto.jp